

# 経済情報ピックアップ

## 7月

### ◆茨城県、全国の景気動向指数

7/30日、茨城県により公表された、5月の景気動向指数（C I：コンポジットインデックス、平成17年=100）・一致指数をみますと、前月比▲0.8ポイントと2か月連続で低下し、景気の基調判断は「下げ止まり」が続いています。企業生産回りの系列がマイナスに寄与しました。

一方、7/5日、内閣府公表の全国の5月の景気動向指数（C I速報値、平成22年=100）・一致指数は、前月比+0.8ポイント、6か月連続の上昇となっています。景気の基調判断は、前月の「下げ止まり」から、2012年1月以来の「上方への局面変化」に改善しています。

このように、景気動向指数を比較しても、茨城県の景気回復が全国に比べ遅れている状況ははっきりと確認できます。

そもそも、景気動向指数（C I）は、生産、消費、雇用、金融など、様々な経済活動での重要で、景気に敏感に反応する指標の動きを統合することによって、景気の現状把握や将来予測に資するために、全国分は内閣府が、茨城県分は茨城県が作成している統計です。先行指数（景気に対し数か月先行して動く）、一致指数（景気の現状を示す）、遅行指数（景気に対し半年ほど遅れて動く）の3つの指数がありますが、全体で全国は28系列、茨城県は21系列の指標を用いて作成されています。因みに、一致指数は、茨城県の場合、有効求人数、鉱工業生産指数、大口電力使用量、大型小売店販売額、投資財出荷指数、管内輸入額、機械工業生産指数の7指標が採用されています。

また、一致指数C Iによる景気の基調判断の基準が、指数の変化方向と振れ幅の大きさにより、明確に規定されています。因みに、全国の「上方への局面変化」は、「事後的に判定される景気の谷がそれ

以前の数か月にあった可能性が高いことを示す」というもので、「下げ止まり」から「上方への局面変化」に移行した時点で、「既に景気拡張局面に入った可能性が高いことを暫定的に示している」ことも明記されています。

今後、全国の景気は、景気循環の局面判断のために、景気基準日付（景気の山・谷）が景気動向指数研究会の議論を経て決定されることとなりますが、昨年3月頃に景気のピーク（山）を付けた後、昨年11月頃には景気のボトム（谷）を付けたと判定される可能性が高いと思われます。

### ◆平成24年水戸市の家計調査結果

7/12日、茨城県が総務省「平成24年家計調査」結果に基づき、水戸市の品目別消費の特徴を都道府県庁所在地（川崎市、浜松市、堺市、北九州市を含む51市町村）と比較し、整理・公表しました。まず、2012年中の水戸市1世帯当りの消費支出額は、3.7百万円と前年比0.2百万円増加し、全国10位でした（11年18位）。10年は3.8百万円で8位でしたので、概ね震災前に復したと言えます。

ベスト5入りしている品目をみますと、本県特産品のメロン（1位、11年2位）、納豆（4位、同4位）の消費額が上位を維持しています。また、12年は、ヨーグルト、ハムが1位となりました（それぞれ11年10位、43位）。このほか、11年に震災の影響により消費が急増した修繕材料（1位、11年5位）、外壁・塀等工事費（2位、同5位）が引続き上位にあります。このほか、かつお（5位、同3位）、清酒（3位、同8位）が上位にあり、かつおは、高知、静岡、仙台等漁港を有している地に次いで、清酒は、新潟、秋田等酒処に次いで消費が多く、美味いかつおを「あて」に清酒を痛飲する市民の姿が目につかびます。

また、菓子類全体の消費額が上位を続けています（5位、同3位）。ケーキ1位、プリン1位、ようかん3位、せんべい5位と水戸市民は和洋、何でもござれのお菓子好きで、甘辛両刀使いのようです。

（筑波総研チーフエコノミスト 渋谷康一郎）